

西武ホールディングス（HD）が旧赤坂プリンスホテル（東京・千代田）の跡地を再開発した複合ビル「東京ガーデンテラス紀尾井町」が27日、全面開業した。グループの総力を集め、オフィスや住宅も併設した。収益力はホテルだけだった「赤プリ」時代の5倍になる見通し。品川・高輪エリアなどで控える大規模再開発のモデルにする。

「東京の新たなランドマークが完成した」

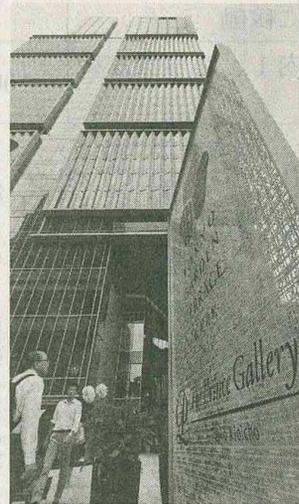
後藤高志社長は27日、報道陣に興奮気味に話した。総投資額は過去最大

新生「赤プリ」収益5倍

西武HD、複合ビル全面開業

となる1040億円。年間の売上総利益（粗利）は90億〜100億円と「赤プリ」の5倍の水準に達する見通しだ。

目玉は傘下のプリンスホテルで最高級とする



27日、全面開業した東京ガーデンテラス紀尾井町

オフィス・住宅併設で

「ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町」。最上部の30〜36階で客室は250室に抑えた。客室数を旧赤プリの3分の1に減らして最も小さい部屋でも36平方メートルの広さを確保した。正規料金は最も安い部屋で1泊6万

円。最上級の客室は59万円になる。18年度に稼働率8割の水準をめざす。オフィス棟はヤフーやメットライフ生命保険が入居してほぼ「満室」の状態だ。ビジネス関連の宿泊予約などホテルとの相乗効果も出ている。

後藤社長は東京ガーデンテラス紀尾井町は「1つの西武グループ」を体現するシンボル」としての意味合いも大きいと話す。意義を強調するのは希薄だったグループ意識が変わったことをアピールする狙いもあるようだ。04年の有価証券報告書の虚偽記載に端を発した経営危機。当時はグループ各社の幹部同士で名刺交換をするほど「他人行儀」だった。

西武HDは紀尾井町エリアの4倍の面積を持つ品川・高輪エリアの再開発を控えるなど今後大型再開発が相次ぐ。